

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
看護学概論	1 単位(30)	1 年次 4 月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

- 1 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけと役割を理解できる。
- 2 看護倫理について理解し、看護者としての責任を自覚できる。

単元	目標	内容	備考
看護の概念	1 看護の概念、看護の定義、目的を理解できる	1 看護の概念 < 5回 10h > 1) 看護の語源と意味 2) 看護の原点 3) 看護とは 4) 看護の定義 5) ナイチンゲールの看護 6) 看護の変遷	
看護の対象	2 看護の対象を理解できる	1 看護の対象としての人間 < 2回 4h > 1) 人間のライフステージ 2) 生物体としての人間 3) 成長・発達するものとしての人間 4) 生活体としての人間 2 患者と家族	
健康の概念	3 健康の概念、健康段階と連続性を理解できる	1 人間にとっての健康 < 3回 6h > 1) 健康のとらえ方 2) 健康の定義 3) 障害の定義 4) 概念の変遷と健康指標の変化 5) 健康段階の特徴と看護 2 基本的権利としての健康 1) 健康を守る法律・施策 2) ヘルスケアシステム 3) プライマリヘルスケア 4) ヘルスプロモーション 5) わが国における健康づくり対策の変遷 3 生活と健康 1) 生活のリズムと健康 2) 生活習慣と健康	
看護の機能と役割	4 看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する	1 看護の機能 < 2回 4h > 2 看護活動の場と看護の役割 1) 看護活動の特性 2) 実践の方法としての看護過程、クリティカルパス 3) 看護活動の場と看護の継続性 (地域・医療施設・福祉施設、継続看護) 4) 看護行政の概要、診療報酬制度と看護 5) 国際協力 6) 看護の専門性	
看護倫理	5 看護者としての職業倫理に基づき、自覚と責任を持つ必要性を理解できる	1 看護倫理 < 2回 4h > 1) 法の概念 2) 看護倫理の必要性 3) 倫理原則 4) 実践上の倫理的概念 5) 倫理的課題と意思決定 6) 看護倫理綱領 7) 看護職者の自律性と看護倫理	【評価】 筆記試験 (レポート含む) (1h) 自己学習 (1h)

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
看護の理論	1 単位 (15)	1 年次 11 月	専任教員 (実務経験のある教員)	1 5 (15)

科目目標

1 看護の理論を理解し、看護に対する考えを深めることができる。

単元	目標	内容	備考
看護理論	<p>1 看護理論の意義と分類を理解できる</p> <p>2 主な看護理論の概要を理解できる</p>	<p style="text-align: right;">< 7 回 1 4 h ></p> <p>1 看護理論の定義</p> <p>2 看護理論の意義</p> <p>3 看護理論の歴史的変遷</p> <p>4 看護理論の構成要素</p> <p>5 看護理論の分類</p> <p>1) 理論の抽象のレベルの分類</p> <p>(1) 広範囲理論</p> <p>(2) 中範囲理論</p> <p>(3) 実践理論</p> <p>2) テーマによる分類</p> <p>(1) ニード</p> <p>(2) 相互作用、人間関係</p> <p>(3) システム</p> <p>(4) ケアリング</p> <p>6 中範囲理論と看護診断</p> <p>1 主な看護理論</p> <p>1) ヴァージニア A. ヘンダーソン</p> <p>2) ドロセア E. オレム</p> <p>3) ジョイス・トラベルビー</p> <p>4) シスター・カリスタ・ロイ</p> <p>5) ジーン・ワトソン</p> <p>6) パトリシア・ベナー</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【演習】</p> <p>1 グループワークと発表</p> <p>* 演習時間は授業担当者が設定する</p> </div>	<p>※フロレンス・ナイチンゲールの看護理論は看護学概論で、ヒルデガード E. ペプロウの看護理論は精神看護の基本技術で学習する。</p> <p>【評価】 筆記試験 (1 h)</p>

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
看護の基本となる技術 I (人間関係成立の技術)	1 単位 (30)	1 年次 4 月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

- 1 看護技術の概念が理解できる。
- 2 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。

単元	目標	内容	備考
看護技術の概念	1 専門職としての看護技術を学ぶ意味と責任が理解できる	1 看護実践における看護技術 < 1 回 2 h > 1) 看護技術とは ・安全・安楽・自立 2) 看護技術の個への適応 2 看護技術の種類 3 根拠に基づいた看護技術 4 看護技術の習得過程	
看護におけるコミュニケーション	2 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技術を理解できる	1 コミュニケーションの基本 < 8 回 16 h > 1) コミュニケーションの構成要素と成立過程 2) 言語的・非言語的コミュニケーション 2 コミュニケーションに必要な自己理解 3 患者－看護師間のコミュニケーション 1) 観察 2) 傾聴、共感的理解 3) 説明等 4 医療チームでのコミュニケーション 1) アサーティブなコミュニケーション ・カンファレンス等 2) 連絡、報告、相談、確認、調整等 5 看護場面に応じたコミュニケーション 1) 看護師が与える影響 ・身だしなみ、表情、距離等 2) 患者の状態に合わせたコミュニケーション	
	3 看護場面に応じた基礎的なコミュニケーション技術を習得できる	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【演習】 < 5 回 10 h > 1 基本的コミュニケーションのロールプレイ ②h 2 看護場面のロールプレイ ⑧h </div>	【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
看護の基本となる技術Ⅱ (対象把握の技術)	1 単位 (30)	1 年次 5 月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

- 1 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解できる。
- 2 看護における記録・報告の意義と方法を理解できる。

単元	目標	内容	備考
フィジカルアセスメント	1 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解できる 2 身体状況进行评估する意義と方法を理解できる 3 身体状況进行评估する援助技術が習得できる	1 ヘルスアセスメントの意義と目的 < 9回18h > 2 ヘルスアセスメントにおける観察 1) 観察の目的 2) 観察の方法・種類 1 フィジカルアセスメントの意義 2 フィジカルイグザミネーション 1) 基本技術 (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 (4) 聴診 (5) 打診 2) バイタルサイン (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧 (5) 意識 3) 系統別フィジカルイグザミネーション (1) 胸部 (心臓・肺) (2) 腹部 (3) 筋・骨格 (4) 血管系 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【校内実習】 < 2回8h > 1 バイタルサインの測定と記録・報告 ④h 2 腹部・胸部のフィジカルアセスメント ④h </div>	
記録・報告	4 看護における記録・報告の意義と方法を理解できる	1 記録 < 1回2h > 1) 記録とは (目的・機能) 2) 記録・管理における留意点 3) 記録の構成 2 報告 1) 報告とは 2) 報告の方法	【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
看護の基本となる技術Ⅲ (医療における安全、安全・安楽な療養環境)	1 単位 (30)	1 年次 4 月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

安全・安楽な医療・療養環境の意義と方法を理解し、対象の環境を整えるための技術を習得できる。

単元	目標	内容	備考
医療における安全	1 医療における安全の意義と方法が理解できる	1 医療における安全とは < 5 回 10 h > 2 医療における事故の概要 3 医療安全対策 1) 安全確保の基本 (1) 医療事故の発生要因と防止の実際 (2) 看護実践における安全 2) 院内感染防止対策 (1) 感染予防の原則 (2) 標準予防策 (スタンダードプリコーション) (3) 感染経路別対策 (4) 感染予防における看護師の役割 【校内実習】 < 2 回 4 h > 1 標準予防策 (スタンダードプリコーション) ②h 2 無菌操作 ②h	
安全・安楽な療養環境	2 安全・安楽な療養環境の意義と援助が理解できる	1 環境とは < 4 回 8 h > 1) 環境の概念 2) 環境調整の意義 2 療養生活における環境 1) 入院患者の療養生活 2) 療養環境の基準 3) 療養環境に関するアセスメント 3 療養環境における看護師の役割 4 療養環境における安全・安楽の意義と目的 1) 安全・安楽の意味 2) 安全・安楽を阻害する因子 3) 安全・安楽確保の援助	
	3 安全・安楽な療養環境を整える援助技術を習得できる	【校内実習】 < 3 回 6 h > 1 ベッドメイキング ②h 2 臥床患者のシーツ交換 ②h 3 環境整備 ②h	【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
看護の基本となる技術IV (看護過程)	1 単位 (30)	1 年次 9 月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

看護過程の意義と科学的思考プロセスを理解できる。

単元	目標	内容	備考
看護過程	<p>1 看護過程の基礎を理解できる</p> <p>2 看護診断の意義を理解できる</p> <p>3 看護過程展開のプロセスを理解できる</p>	<p>1 看護過程の基本構造 < 10回20h ></p> <p>1) 看護過程とは</p> <p>2) 看護過程の構成要素と相互関係</p> <p>2 看護過程展開の基盤となる考え方</p> <p>1) 問題解決過程</p> <p>2) クリティカルシンキング</p> <p>1 臨床判断としての看護診断</p> <p>1) 看護診断とは</p> <p>2) 看護師の責任と看護診断</p> <p>3) NANDA-I 看護診断の構造と種類</p> <p>1 ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程の展開</p> <p>1) アセスメント</p> <p>(1) 疾病の理解</p> <p>(2) 面接・観察・フィジカルアセスメント</p> <p>(3) データ・情報収集と整理</p> <p>(4) データ・情報の分析・解釈</p> <p>(5) 全体像の構造化</p> <p>2) 看護診断</p> <p>(1) 問題の明確化</p> <p>(2) 問題の優先順位の決定</p> <p>3) 看護計画</p> <p>(1) 目標設定</p> <p>(2) 看護計画立案</p> <p>4) 実践</p> <p>(1) 看護実践の意義</p> <p>(2) 看護実践時の留意事項</p> <p>(3) リフレクションを用いた看護実践の振り返り</p> <p>(4) 報告と記録</p> <p>① 経過記録</p> <p>② PONRとフローシートの活用方法</p> <p>③ 個人情報としての記録管理</p> <p>5) 評価</p> <p>(1) 評価の意義・目的</p> <p>(2) 評価の時期</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【演習】 < 4回8h ></p> <p>事例展開 ⑧h</p> <p>グループワーク</p> </div>	<p>【評価】</p> <p>筆記試験 (1h)</p> <p>自己学習 (1h)</p>

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
生活を整える技術 I (食事・排泄)	1 単位 (30)	1 年次 6 月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

- 1 健康と栄養の関連について理解し栄養状態を整えるための基本的援助技術を習得できる。
- 2 排泄の意義を理解し、基本的援助技術を習得できる。

単元	目標	内容	備考
食事	1 食事の基礎知識が理解できる	1 食事の意義と目的 2 食事援助の目的 3 食事の環境	< 2 回 4 h >
	2 食事のアセスメントが理解できる	1 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 1) 栄養状態のアセスメント (1) 健康な食生活と食事摂取基準 (2) 水・電解質バランス (3) 摂食、嚥下の状態 (4) 栄養状態が心身に及ぼす影響 2) 摂食動作と体位 3) 口腔内の状態	
	3 栄養状態を整えるための援助技術が習得できる	1 栄養状態が低下している患者への援助 1) 食事の種類 2) 食事摂取の自立困難な人への援助 3) 非経口的栄養法 (1) 経管栄養法 (2) 中心静脈栄養	
		【校内実習】 < 2 回 4 h > 1 口腔ケア 2 食事介助	
排泄	4 排泄に必要な基礎知識が理解できる	1 排泄の意義 2 排尿・排便援助の目的	< 6 回 12 h >
	5 排泄状態のアセスメントが理解できる	1 排尿・排便行動のアセスメント 1) 排尿・排便のニーズのアセスメント 2) 腹部のフィジカルアセスメント 3) 排泄行動の自立の程度 4) 排泄への影響因子 5) 排泄パターンのアセスメント	
	6 排泄を整えるための援助が理解でき、援助技術が習得できる	1 排泄の基本的援助 1) 排泄環境の整備 2) 自然な排尿・排便を促す援助 3) ポータブルトイレ、トイレでの援助 4) 床上での排尿・排便の援助 5) 自然な排泄が困難な人への援助 (1) 排尿障害時の援助 (2) 排便障害時の援助	
		【校内実習】 < 3 回 8 h > 1 便器・尿器を用いた排泄援助 (陰部洗浄含む) ④ h 2 浣腸・摘便 ② h 3 導尿 ② h	
			【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
生活を整える技術Ⅱ (姿勢・活動、清潔・衣生活)	1 単位 (30)	1 年次 4 月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

- 1 姿勢・活動の意義を理解し、基本的な技術を習得できる。
- 2 清潔・衣生活の意義を理解し、基本的な技術を習得できる。

単元	目標	内容	備考
姿勢・活動	1 健康生活と活動に必要な基礎知識が理解できる	1 活動の意義・目的 < 3回6 h > 1) 活動と心身への影響 2) 安静の影響 3) 生活のリズム (1) サーカディアンリズム (2) 睡眠の種類・睡眠障害の種類	
	2 活動状態のアセスメントができる	1 活動状態のアセスメント 1) 日常生活動作 (ADL) 2) 生活パターン 3) 睡眠・休息の状態と援助	
	3 活動を促す援助技術を習得できる	1 よい姿勢とボディメカニクス 2 基本体位 3 活動・休息の基本的援助 1) 体位変換 2) ポジショニング 3) 移乗・移送	【校内実習】 < 2回4 h > 1 体位変換と安楽なポジショニング ②h 2 移乗・移送 (車椅子・ストレッチャー) ②h
清潔・衣生活	1 清潔・衣生活に必要な基礎知識が理解できる	1 清潔の意義・目的 < 4回8 h > 1) 身体的・心理的・社会的意義 2 衣生活の意義・目的 1) 身体的・心理的・社会的意義	
	2 清潔・衣生活の状態のアセスメントと援助の決定が理解できる	1 清潔状態のアセスメント 1) 皮膚・粘膜の汚染状況 2) 日常生活状況 2 衣生活のアセスメント 1) 衣類の汚染状況 2) 日常生活状況 3 状態に応じた援助の決定と留意点	
	3 清潔・衣生活を整えるための援助技術が習得できる	1 清潔の基本的援助 1) 全身の清潔援助 2) 身体各部における清潔援助 2 衣生活を整えるための援助 1) 寝衣の選択と個性の尊重 2) 整容 3) 寝衣交換の方法	【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h) 【校内実習】 < 3回10 h > 1 足浴・爪切り ②h 2 清拭・寝衣交換 ④h 3 洗髪 ④h

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
診療に伴う技術 (治療・検査に伴う技術)	1 単位 (30)	1 年次 10 月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

治療・検査等を受ける対象の看護を理解するための基礎的知識と技術を習得できる。

単元	目標	内容	備考
治療に伴う看護	1 薬物療法の意義を理解し、対象の看護を理解できる	<p>1 与薬の基礎知識 < 5 回 10 h ></p> <p>1) 薬物の体内動態と薬効</p> <p>2) 与薬の指示と情報 (*薬の調べ方を含む)</p> <p>3) 薬物の保管・取扱い</p> <p>2 与薬時の看護者の役割</p> <p>1) 診療補助業務における看護師の責任</p> <p>2) 与薬を安全・確実に行うためのルール</p> <p>(1) 誤薬の防止</p> <p>(2) 患者誤認の防止</p> <p>(3) 情報伝達と共有管理</p> <p>3 与薬の援助方法</p> <p>1) 内用薬・外用薬の与薬と安全</p> <p>(1) 経口与薬法 (2) 直腸内与薬法 (3) 点眼</p> <p>2) 注射と安全 (針刺し事故防止を含む)</p> <p>(1) 皮内注射 (2) 皮下注射 (3) 筋肉内注射</p> <p>(4) 静脈内注射 (ワンシヨット、点滴静脈内注射)</p> <p>3) 輸液療法時の安全</p> <p>(1) 輸液ラインの観察・管理</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【校内実習】 < 5 回 10 h ></p> <p>1 経口与薬法 直腸内与薬法 ② h</p> <p>2 注射器の組み立て・アンプル吸い上げ ② h</p> <p>3 筋肉内注射 ② h</p> <p>4 輸液ラインの組み立て・バイアル取り扱い ② h</p> <p>5 点滴静脈内注射 ② h</p> </div>	
	2 輸血療法時の看護を理解できる	<p>1 輸血管理の基礎知識 < 1 回 2 h ></p> <p>1) 輸血療法の目的</p> <p>2) 血液製剤の種類と特徴</p> <p>3) 副作用と輸血ミス予防</p> <p>2 輸血法及び実施の留意点</p>	
検査に伴う看護	3 検査を受ける対象とその看護を理解できる	<p>1 検査時の看護 < 3 回 6 h ></p> <p>1) 看護師の役割</p> <p>2) 他職種との連携</p> <p>2 主な検体検査と看護</p> <p>1) 検体の採取法と留意点 (尿・便・喀痰・血液)</p> <p>2) 腰椎穿刺、骨髄穿刺検査時の看護</p> <p>3) 血液検査の意味 (血球検査、化学検査、免疫・血清検査)</p> <p>3 主な生体検査と看護</p> <p>X 線検査・造影・CT・MRI・超音波検査・内視鏡検査</p>	<p>【評価】</p> <p>筆記試験 (1 h)</p> <p>自己学習 (1 h)</p>

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
臨床看護技術	1 単位 (30)	2 年次 4 月	* 講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 健康障害をもつ対象を理解し、主要症状・治療処置等の状態に応じて複数の看護技術を適用する基礎を習得できる。
- 2 救急状態での看護の役割を理解し、一次救命の技術を習得できる。

単元	目標	内容	備考
状態に応じた看護	1 健康障害をもつ患者の代表的な状態と看護を理解できる	1 症状発生時の看護 < 7回 14h > 1) 主要症状と随伴症状 2) 症状発生時のアセスメント 2 主な症状と看護 1) 発熱 (1) 発熱時の観察とアセスメント (2) 発熱時の援助 (温罨法、冷罨法など) 2) 呼吸困難 (1) 呼吸困難の観察とアセスメント (2) 呼吸困難を緩和する援助 (酸素吸入、ネブライザー、吸引) 3) 浮腫 (1) 浮腫の観察とアセスメント (2) 浮腫に伴う苦痛を緩和する援助 (静脈還流の促進など)	
	2 状態に応じた看護援助が習得できる	1 患者の状態のアセスメント 2 患者の状態に合わせた援助 1) 苦痛を緩和するための援助計画 2) 援助計画の実施・評価 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【校内実習】 < 2回 6h > 1 酸素ボンベの取り扱い、酸素吸入法、 ネブライザーの基本操作 ②h 2 状態に応じた看護援助の実際 ④h </div>	
救急法	3 救急法が理解できる	1 上級救命講習 1) 生命の危機状況のアセスメント 2) 一時救命処置 3) 止血法 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【校内実習】 < * 8 h > 1 救急法：上級救命講習受講 </div>	【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)